

令和7年度第4回郡山小学校学校運営協議会（学校保健委員会）議事録

1 日 時 令和7年12月17日（水） 19:00 ～ 20:30

2 場 所 2F コンピュータ室

3 あいさつ（学校長、委員長）

インフルエンザによる学年閉鎖もあった。健康にご留意を。（委員長）

インフルエンザによる学年閉鎖が2学年。先生方にも体調不良者が出た。本日は学校医講演で免疫に関する話もあるとのこと。ぜひ学びを深めたい。（校長）

4 協議内容

（1）学校保健委員会・・・養護教諭より

○定期健診結果より

- ・身長・体重等については、県・市平均と比べ概ね変わらない。
- ・内科・歯科・眼科とも特に問題は見られなかったが、視力については学年が上がるにつれ低下傾向がみられるため、今後も注意が必要。

○保健室利用状況

- ・内科的利用については、利用が多い月は例年通り。例年高学年の利用が多いが、今年度学年の偏りは少ない。
- ・外科的利用については、低学年の利用が多い傾向。
- ・首から上の部位のケガや急な疾病・病院受診が必要と思われるケースでは保護者連絡を行っているが、今年度は例年より少ない。
- ・感染症について、今年度インフルエンザの流行時期が早かった。12月学年閉鎖実施

○その他

来年度の学校再編に向け、三校での情報共有や準備を進めている。

○質疑

- ・子どもたちの姿勢や筆圧の弱さなどが気になる。
→一人1台端末使用の影響もある。端末の適切使用について各担任から指導してもらっている。また、授業改善の一環として椅子への着座の姿勢についても指導をしている。
- ・教室の照度に問題はないか
→検査結果は問題ない。
- ・エピペンについて
→本人携帯のものと職員室保管のものと複数本で対応できるようにしている。

- ・点鼻タイプのものとの比較について

→点鼻タイプのは、使用する際「痛くない」ことが強みだが、緊急時適切に使用できるかどうか弱み。エピペンは、針を刺せば確実に薬が体内に入ることが利点だが、痛みを心配して力を加減してしまうことが心配。しかし、どちらも薬剤が体に入れば確実に効果はある。

(2) 学校医による講演 「祝、ノーベル生理学・医学賞」

- ・2025年のノーベル生理学・医学賞を坂口先生が受賞。「制御性T細胞」の発見とその役割の解明を通じて、自己免疫性疾患やがん、移植免疫などの研究の発展に多大な貢献をされた点が評価された。
- ・免疫について、以前は「感染症に対する人体の反応」としてとらえられてきたが、研究が進むにつれ、免疫反応は病原体以外にも様々な物質に反応することが分かってきた。また、免疫反応が収まる条件は、「病原体が死滅」「アレルゲンがなくなること」と考えられていたが、「制御性T細胞」の発見により、自分で反応を抑制する力（免疫寛容）があることが分かった。
- ・例えばインフルエンザであれば、ウイルスが体内に入り爆発的に増殖することで急な高熱に見舞われる。その後免疫反応が緩み体調が回復するが、その際に「制御性T細胞」が働いている。免疫反応は長期化すると自分の体を傷つけることになるため、免疫暴走を抑制することはとても重要。
- ・免疫寛容の発見により、アレルギーに対して、少量を人体に取り入れ改善につなげることができるようになった（これまで食べられなかったものが少しずつ食べられるようになる・花粉症の症状から解放される 等）
- ・鼻水や咳・痰、下痢、嘔吐等は病原体を物理的に排除する手段。昔の薬はよく効いたが、これらのものが出ない状態とはどういう状態だろうか。
- ・発熱は、免疫細胞を迅速に大量に活性化させる手段。発熱初期に解熱剤を使うことはどういうことだろうか。

5 その他

- ・令和8年度キッズウィーク・土曜授業について

キッズウィークは実施しない。土曜授業は新年度提案

- ・コミュニティ・スクールに関する意識調査について
- ・今後の主な予定・次回日程確認
- ・旗当番について

地域とPTAとで連携を図る。地域CO、PTA会長・安全部長、自治会長で、1月8日（木）に学校で協議を行う。